

東シナ海域に主産卵場をもつ主要資源の初期生態の把握

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-07-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010103

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



東シナ海域に主産卵場をもつ主要資源の初期生態の把握

西海区水産研究所 東シナ海漁業資源部

研究の背景・目的

東シナ海は極東地域では最大の大陸棚面積を有しており、我が国周辺海域で漁獲される暖水系魚類には、東シナ海を主要な生息場所もしくは産卵場、初期生活史の場とする種が多く存在します。また、東シナ海は日本や中国、韓国などが資源を利用する国際的な入会海域でもあります。しかしながら、魚類資源に関して、東シナ海全域を対象とした調査・研究は西海区水産研究所が単独で行っているだけであり、多くの研究機関によって調査が行われている日本周辺海域に比べて、基礎的知見が非常に少ないのが現状です。

東シナ海の主要水産資源の変動要因の解明に向けては、その仔稚魚期の分布や輸送等の生態学的知見を集積することが必要となります。本研究では、東シナ海とその周辺海域における持続的漁獲に必要な資源評価と管理方策に資するため、東シナ海で産卵を行う魚類の初期生活史特性を解明することを目的としました。

研究成果

毎年、主に2-3月および4月に東シナ海の大陸棚～斜面域において調査船調査を行い、仔稚魚標本および海洋環境データを収集して、以下のような分析と生態情報の解析を行いました。1) 各標本から仔稚魚を抽出し、種査定を行い、マアジ、イワシ類、サバ類に加え、タチウオ、ブリ類、サンマ等の卵稚仔分布マップを作成しました。2) カタクチイワシについては分布と海流等の物理環境およ

び成魚の分布情報に基づき発生海域や輸送経路を推定しました。3) ブリ属卵や仔魚の採集方法について検討を行い、海表面を選択的に曳網するプランクトンネットによる採集が必要である事を明らかにしました。

波及効果

本研究成果はこれまで非常に知見が乏しかった東シナ海域において、魚類の初期生活史情報を提供できました。その結果、東シナ海の魚類資源、特に新規加入量の動向が我が国の漁業資源に強い影響を持つことが示唆されました。今後、東シナ海域での研究を発展させることにより、魚類の資源変動の最大要因である加入量変動の解明に向けて重要な情報を提供できます。

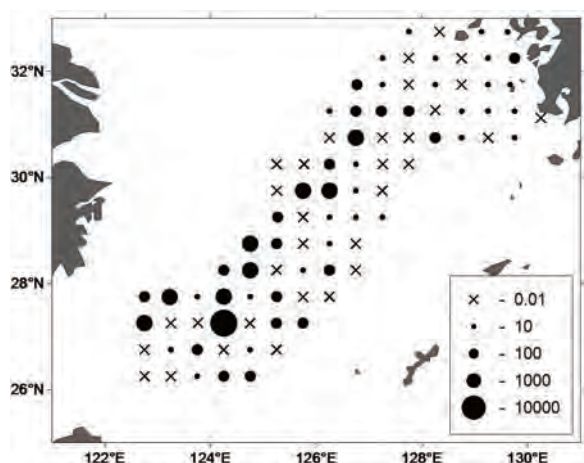


図. 2009年4月にニューストーンネットにより採集されたカタクチイワシシラス(個体/1000m²)

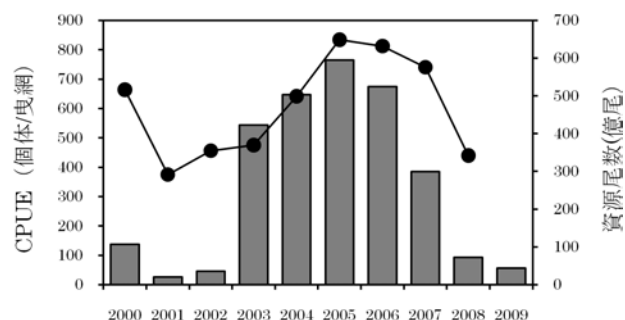


図. ニューストーンネットによるカタクチイワシ仔魚のCPUE(棒)および0歳魚資源尾数(折線)